

金沢 昂紀

所属大学：佐賀大学 経済学部経済科 地域経済専攻

県内インターンシップ先：(株)JTB 九州佐賀支店

留学先：マニラ、セブ（フィリピン）

留学期間：2017/9/10～2017/11/10（4年次）

受入機関名：JTB アジアパシフィックマニラ支店、  
セブ支店



### 活動概要と成果

JTB アジアパシフィックのマニラ支店、セブ支店で約 2 ヶ月のインターンシップに従事。セブ支店では主に、日本からフィリピンにやってくる訪日日本人に対してのオペレーション全般の業務を経験。実際の職務内容として、対部内での仕事は JTB の事業パートナーである、宿泊施設、観光施設等との予約のやり取りや、新規契約の交渉などがあり、対お客様の観点だと、空港へのお出迎え（斡旋）、ホテル等食事会場の準備、ツアーデスクでのオプションツアーの申し込み等、現地ランドの手配の担当も行った。一方マニラでは、フィリピン国内から日本へのアウトバウンド業務として、フィリピンからの訪日観光客の増加を意図した、訪日プロモーションのイベントの運営に携わった。また、現地日本国企業の周年イベントや製品発表会等、MICE 業務にも携わった。JTB 入社前に海外の支店での業務を経験することによって、JTB グループの国内外の結びつきやバリューチェーンの仕組みを理解することができた。またセブ支店での業務経験により、旅行業の基本の概要をつかむことができた。マニラ支店では、日本への誘客のための企画であったり、旅行外事業であるイベント事業などの企画を通して、これからの旅行業の在り方、観光産業の在り方について考察をする非常に貴重な機会となった。

### 日本発信プロジェクト活動概要と成果

○フィリピン人に対しての「九州及び佐賀の魅力」の発信

ー実行したこと

マニラ市内の SM モールで開催をされた、「TRAVELL MARKET」の JTB ブースにおいて、外国人向けの日本（九州）へのツアーパンフレット等を用いて、九州 PR のポップアップを設置。ブースを訪れる現地の一般個人客や現地の旅行会社に対面で、九州の自然や食、アクティビティをはじめとした魅力や、日本へ足を運ぶ際の費用感等、対面で PR 活動を行った。

## ー成果・気づいたこと

フィリピン人の九州に対しての認知度やイメージは、まだまだ浸透をしていないことがわかった。「桜」や「紅葉」「日本食」「温泉」「スキー」等、キーワードで日本に対してのイメージは持っているものの、訪問箇所としては「京都」「東京」「大阪」などといったイメージしか、未だ持っていないことを肌感覚で感じることができた。マニラからであれば、福岡まで直行便が就航をしており、東京へ行くよりもアクセスが良好であること。フィリピンでも大人気の「ラーメン」については、豚骨ラーメン＝日本といった曖昧な認識で、福岡をはじめとした九州が発祥の地であるということに対しての認識が浸透をしていないこと等、フィリピン人や東南アジア諸国の個人客へ対しての九州の訴求要素はまだまだ可能性が多いにあるということを感じた。

## 留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

留学を通じて、最も成長を実感した経験は、マニラで某日経大企業の製品発表会の運営に携わった時のこと。約 1000 名規模のカンファレンスであったことから、オペレーション内容に対しての労働力が不足しており、インターン生である私にカンファレンスのレセプション及び、カンファレンスの第一タームの責任者という重大な役割を与えられることとなった。その際のチームメンバーの中には一人も日本人はおらず、全員がフィリピン人やマレーシア人をはじめとした東南アジア諸国の多国籍のチームであり、約 10 名の外国人を統括するといった難しいミッションであった。ただでさえ、MICE の運営にも、ビジネスレベルでの英会話に慣れていない状況で、かつ会場内でのコミュニケーションは主に、インカムを使ったマイクとイヤホンでのやり取りであることから、各メンバーに適切な指示を出すことが非常に難しい状況であった。そこで、A4 サイズの用紙に各役割ごとに、やるべきこと、注意点、タイムスケジュール等を書き出して、わかりやすく可視化をしてあげること、部下のメンバーに全体の流れを覚え込ませた上で、開場前にリハーサルを行なうことでミスの発生がないように、指示を出すことができた。また、フィリピン人は気質上ルーズな一面もあるため、一緒に食事をとったり、開場前に円陣を組むなどして、士気を高めチームの一体感の醸成にも努め成功に収めた。

## あなたにとっての留学の価値

留学の価値は端的にいうと、自分自身の常識、自分自身の当たり前の境界や壁を越えることにあると感じる。この常識や当たり前は、例えば生活やライフスタイル、プロフェッショナル

ルとしての仕事観、経済の流れ、テクノロジーに対しての国としての向き合い方、個人の生活習慣等々、様々ではあるが、日本という国で生きている中で自分の常識や認識を超えた、価値観などに触れることにより、「グローバルゼーション」といったものを、体験的に感じることができることが重要だと思う。新しい価値観に触れることによって、自分のキャリアアクションに必要なことも明確になるであろうし、世界的な潮流から取り残される可能性も少なくなるだろうし、自身のキャリアアップの為に、メタ的に海外と日本の「境界線」を認知しておくことは極めて重要であると感じる。また、もう一つの意味では海外に自分の居場所ができるということも大切であると思う。言い方を変えると逃げ道を作れるということ。日本での常識や当たり前は世界的に見ると異常でもあり、小さな事象でしかなく、住む場所、ネットワークをしておくことが、精神的にも経済的にも安心感を保つことに繋がる。